



からしだね

キリストの受難 カトリック池田教会

2016年
1月号 (512号)

共同宣教司牧：畠 基幸神父・松本 一宏神父

協力司祭：デニス・マックゴワン神父

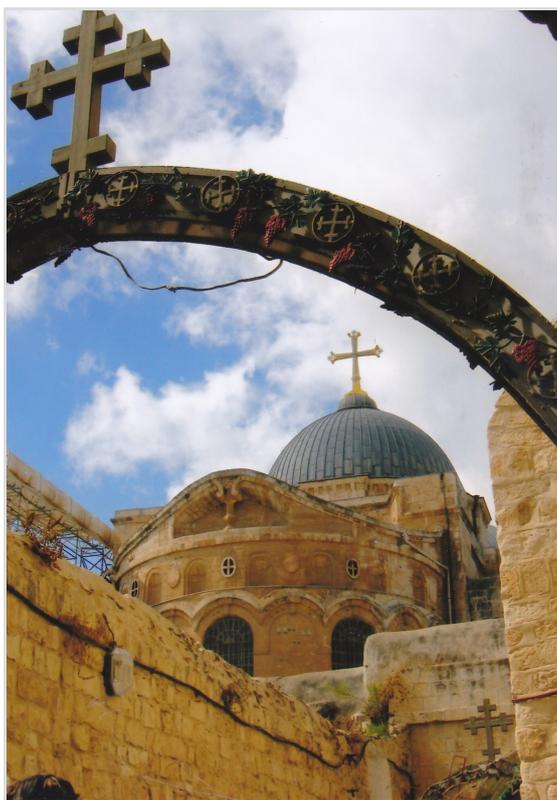
住所：〒563-0041 池田市満寿美町9-26

TEL：072-751-2400

FAX：072-753-4624

URL(ホームページ)：

http://www.wombat.zaq.ne.jp/catholic_ikeda/



聖墳墓教会 (エルサレム)

巻頭言	2	待降節の黙想会	4
北摂地区リーダー研修会	5	第40回クリスマス・ チャリティコンサート	6
クリスマス会	7	ガラスケースの言葉	7
宝塚黙想の家から	8	研修委員会からのお知らせ	8

表紙写真 撮影:弓削

池田教会創立60周年を迎えて

畠基幸神父

皆さま、新年 あけましておめでとうございます。

「いつくしみの特別聖年」が始まりました。皆さまのお手元には、大勅書の小冊子と「いつくしみの特別聖年のための祈り」のカードがあると思います。この一年は、祈りのカードの言葉にあるように、「神のいつくしみの聖なる年として、主の恵みに満ちた一年となり、わたしたちの教会が新たな熱意をもって、貧しい人により知らせをもたらし、捕らわれ、抑圧されている人に解放を、目の見えない人に視力の回復を告げることができますように、いつくしみの母であるマリアの取り次ぎによって」、新しい福音宣教の船出となるように希望しています。

お気づきの方もおられると思いますが、池田教会は創立60周年目の年となります。ちょうど、この記事を書いている今日、2015年12月18日は、60年前の1955年のこの日にあたり、豊中教会から分離して小教区が設立され、日本家屋の聖堂と司祭館が田口芳五郎司教により祝別され、池田教会の初代主任としてカール・シュツミツ神父が任命された日なのです。教会では、25年、50年を祝って、次は75年に祝うことが決められているので、誰一人この日を祝うことなくこの日が来ていました。ところが、ちょうどこの日は聖マリア幼稚園のクリスマス会。夕方四時から五時半まで子供たちの歌声がこの教会の聖堂に響き渡りました。カール神父が、小教区がこの地域に根付くために児童館の設立を企画したのは、若い夫婦の子育てに寄り添うことで教会に子供たちの声が満ち溢れるようにとの思いからでした。カール神父の思いは、デニス神父により地域に愛される幼稚園へと発展し、いま松本神父へとバトンタッチされました。神の子イエスの誕生を祝う、天使組（三歳児）の歌、ヨセフ組（四歳児）歌と合奏、そしてマリア組（五歳児）の聖劇は、満席の父兄たちの熱い子供たちへのいつくしみのまなざしで、ますます大きな甲高い子供たちの声であふれていた。そして、私の目が潤んだのは、今はいないカール神父のことを思ったからでした。

2015年は、戦後70周年を振り返り、教区新生計画20周年を振り返り、池田教会評議会規約10周年を振り返りと過去を振り返りながら、現在の私たちを顧みて、一体どの方向へ進みゆくのか模索していたのではないのでしょうか。教区の五つの教会像、共同宣教司牧、評議会中心の教会運営とどれも素晴らしい着想と計画が展開されました。これをさらに推し進めればよい結果がでるかもしれない。しかし、わたしの感じることは、素晴らしい計画も人材がなければ何もできないということです。ここで言う人材とは、優秀な人材ということではなく、神のために自分を委ねる人のことです。「神の国と神の義を先ず求めなさい。それらのものは、与えられる。ハレル・ハレルヤ」という賛歌を

口ずさむような人です。「教会に救われた人」と言ってもいいでしょう。「おことばどおりこの身になりますように」とマリア様のみ言葉に聞く姿は宝です。教会の未来は、このように主イエス・キリストを信じ、その愛の国を倦むことなく追い求める人を養成できるかどうかにかかっているのです。私たちは、みことばの分かち合いをあきらめてはいけないと思います。その場に働かれる聖霊に心を開き、互いを信頼できなければ、信仰は伝わらないのです。私たちは信じているイエスとの出会いこそが伝えたいものなのです。

その伝えたい出会いに関して、教皇フランシスコは、2015年に二つの重要な文書を発表されました。第二バチカン公会議閉幕50周年を「いつくしみの特別聖年」とする大勅書「ミゼルディエ、ブルトゥス（いつくしみの御顔）」と環境に関する回勅「ラウダート・シ（主を賛美せよ）」です。この二つはカトリック信者の信仰生活の指針でもあり、新しい福音宣教の教科書のようにもあります。「いつくしみの御顔」は、教皇自身、「神の愛が示される具体的な現実」で、信者の生活の中にしみとおるようにと願っておられ、「いつくしみの香りが、信じる人と遠く離れている人の双方に届き、神の国が既に私たちの間にあることのしるしとなりますように」と私たちが実践するよう鼓舞されました。そして、「ラウダート・シ」は、国連気候変動枠組み条約第21回締約会議（COP21）の参加者へのアピールの中で、引用されて、「この惑星に住むすべての人」に語りかけ、「地球は本質的に分かち合うべき相続財産で、信者にとって、それは創造主への忠誠の問題です。神はすべての人のためにこの世をお造りになったからです。従って、あらゆる環境保護のための活動は、貧しい人や恵まれない人の基本的権利を考慮に入れた、社会的な視点を伴う必要があります（LS 93）」。

この参加者へのアピールはバチカン代表の枢機卿から発表されましたが、このように現代世界との対話、社会問題への関心は、第二バチカン公会議後、外の世界とのかかわりを自ら開くという基本方針に沿ったもので、それはカトリック教会の「天国」の捉え方を一新して、「新しい天と地」がこの世の歴史の内いかに実現していくべきかを考察した終末論の神学の刷新の影響が大きいのです。カール神父が殉教者として列福調査が行われているのは、この環境保護において貧しい人の基本的権利の代弁者となって殉教したからです。

今年一年は、教皇の文章を消化して、新しい福音宣教に乗り出す力をうけるようにいたしましょう。そうすれば、カール神父を初代主任とされた神のみ旨を理解し、次世代へと伝えるべき信仰の内容がはっきりと方向づけられましょう。長くなりました。

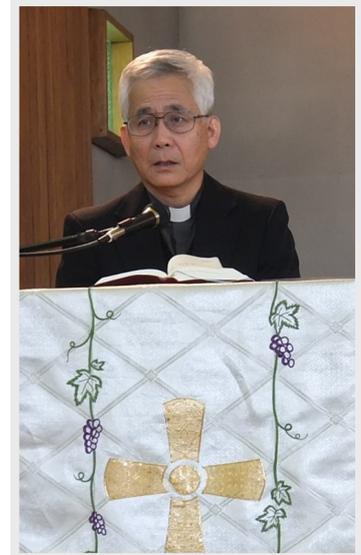
皆様の家族と出会う人々の上に 主の祝福が豊かに注がれますように！

待降節の黙想会

2015年11月22日

王であるキリストの祝日にイエズス会の赤松廣政神父様に黙想会をご指導していただきました。

まず「わたしは良い牧者」と言ったイエスについて考えてみたいと思います。見失った1頭の羊を探す為に99匹を置いて探し回り、見つけたら皆と喜びを分かち合い、罪深い人、徴税人と楽しそうに食事をするイエス。放蕩息子のたとえ話（ルカの福音書15章）では放蕩の限りを尽くした弟が父の許に帰る歩みを始め、ふるさとに近づいてきたとき、父は未だ遠くにいる息子を見つけひと目で彼がどんな生活をしていたかすぐに分かりました。父は自分から近寄り、あたたかく家に迎え入れ宴会を開き「弟は死んでいたのに生き返り、見失っていたのに見つかったのだ」と喜びます。弟を罪人と言い換えれば、神は罪人を招こうとなさった。受肉のイエスは試練を受け苦しまれたから、人間の弱さ・悲しみ・渇き・失望・孤独を自分のものとして引き受けることができ



になる。神が私たちを救う方法はユニークです。それは、神ご自身が貧しい者、傷ついた者となられ私たちと共にいて癒やしてくださるのです。私たちも親として、指導者として、子供や生徒と共にいることが何よりも大切なのではないのでしょうか。もし彼らが助言を聞くとすれば、親や指導者が共にいてくれるからではないのでしょうか。そして私たちは毎日の生活において、失望・心配・孤独・困惑の中で死を体験していると思います。でも、不思議とそれにつぶれてしまわない。そこから再び元気になり希望をもって生きていける。これはイエスの生きざま、「死から命へ」というそのことを体験しているのだと思います。

イエスのご自身をどのような王であると示したかったのでしょうか？小さなロバに乗って入城するイエスは王のイメージからかけ離れています。イエスは「あなた方のなかで偉くなりたい人は皆に仕える者になりなさい。僕になりなさい。仕えられるためではなく、仕えるために来た。」と当時の王様のイメージとは全くかけ離れたことを言われています。イエスは私たちを、イエスが貧しさと謙遜の中でいきたように、私たちも貧しさと謙遜を引受けてイエスに従うよう招いておられます。

以下にご講話を拝聴して寄せられた感想文の一部を掲載します

- ・力で上から支配し、制圧するためではなく、人々に仕えるためにこの世に来られたイエス。道を見失った人をイエス御自身が探し求め、見つけて、大喜びしてくださる無限のいつくしみを黙想することができました。「ともにいる」とおっしゃってくださったイエス、私たち人間のレベルまで自分を低くして一緒にいてくださる神様の人間への深い愛を感じることはややもすればすぐくじけて、下を向く私の心に「小さな復活体験」が起こり、光のほうへ向く力を与えられたと感じました。この黙想会を拝聴して、待降節

ご降誕への心の準備だけではなく、12月8日から来年の王であるキリストの祝日までの期間に祝われる「神のいつくしみの特別聖年」への準備にもなりました。また、日常生活においても家族や大切な人と「ともにいる」ことの重要さを感じました。いつもどんな時も、喜びの時も悲しみの時も「一緒にいてくださる神」を感じ、祈り、感謝し、自分自身も身近な人にとって「ともにいるひと」になれば、と思いました。

- ・中学生でもとてもわかりやすかったです。ほうとうむすこの話が印象的でした。
- ・貧しさ、謙遜を引き受けてくださる 私たちに「従いなさい」とのまねきのお言葉ありがとうございました。
- ・「ともにいる」なぐさめといやしの言葉に改めて深い喜びを感じることができました。勇気をもって生きてゆく力を得た黙想会。ありがとうございました。

(研修委員会)

「聖霊の賜物に気付く」

11月15日池田教会カール記念館に於いて北摂地区リーダー研修会が開催されました

「私は他の人を慰めたり励ましたりする言葉を神様から示されて、話したいとおもうことがよくある」「私は主のしもべたちが彼らの使命を十分はたせるように、いろいろ助けることが喜びである」… 他、全部で125問の質問集。

北摂地区8教会、参加者38名がカール記念館で集い、各教会の日曜学校のリーダー、指導者の役をされている方々が、祈りながら自分たちに与えられている聖霊の賜物に気付くための研修会を行いました。

賜物（カリスマ←カリス（恵み）から派生した言葉）は神様の一方的な恩寵であると言えます。また、ひとそれぞれに与えられる賜物が違うとも聖書は教えています。（ダニエル神父様作成の導入プリントより）

教会の徳を高めるために一人ひとりがどのような賜物をいただいているのか自分で気づくことは、これからの教会生活、信仰共同体を楽しく、深く、み旨にかなうように生きるためには有意義なことだと思います。

38名は125の質問に対する答えを 「そのとおりだ」 「あてはまる」 「少しあてはまる」 「あてはまらない」 のいずれかを選び集計して、与えられた賜物に気付くことができ、同じ共同体と分かち合うことができました。

新しい発見もあつたり、また改めて確認することができたと思いました。この機会を与えた下さったことに感謝いたします。

もし、この質問集に興味のある方はいつでも研修委員にお尋ねください。プリントをお渡しいたします。個人で、お友達で祈りながら答えていくと神様からの賜物の贈り物に気が付くことができるとおもいます。

(研修委員会)

クリスマス 第40回 チャリティコンサート

大阪ゲヴァントハウス合唱団
池田ジュニア合唱団

池田教会 12月6日



12月6日（日）午後2時から、カトリック池田教会聖堂にて、恒例の第40回クリスマス・チャリティコンサートが開かれました。

当日は例年にも増してたくさんのお客様（200名以上）にいらして頂くことができました。今年は、大阪ゲヴァントハウス合唱団・池田ジュニア合唱団の2つの合唱団に出演して頂きました。

以下が当日のプログラムです。

★池田ジュニア合唱団

オープニング Dona nobis pacem

1. Maria, Mater gratiae
2. こどもたちへの歌
3. レカノシュ
4. Simi Yadech
5. Mary had a little lamb
6. The Lord bless you and keep you
7. そりに乗る雪遊び

★大阪ゲヴァントハウス合唱団

1. メンデルスゾーン リーダー より
森への別れ・春の予感・ひばり
2. 中山晋平10のメロディー より
しゃぼん玉・鞠と殿さま
3. クリスマスオラトリオ 第1部 より
4. オラトリオ「聖パウロ」第1部 より

日曜学校クリスマス会

12月13日



主の降臨

御独り子をお与え下さったほどにわたしたちを愛してくださる神。
その愛のうちに歩み始めたわたしたちが、ここにこそ真の喜び・自由・平和・
希望があることを社会に証ししていけますように。聖霊のお助けを祈ります。

1月のガラスケースの言葉

ゆる
赦しなさい

そうすれば、あなたがたも赦される

ルカ 6の37



宝塚黙想の家から 黙想会のお知らせ

■日帰り黙想会

1月28日(木) 10:00 ~ 15:30 指導：山内十束神父

1月29日(金) 10:00 ~ 15:30 指導：山内十束神父

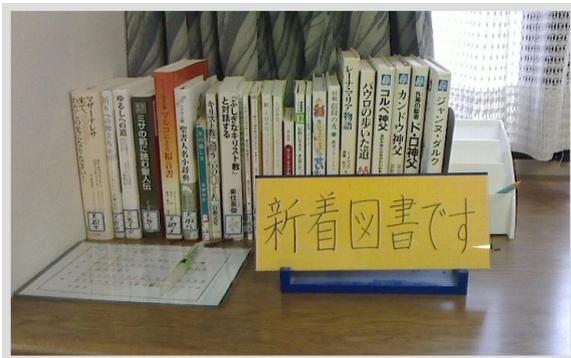


■待降節黙想会

1月30日(土)17:00 ~ 31日(日)15:30 指導：山内十束神父

各黙想会、費用等のお問い合わせは「宝塚黙想の家」 ☎0797(84)3111

お知らせ



カール記念館1階ホールの食堂奥に小さな図書コーナーを設けました。新刊中心に図書の貸し出しを行っています。ご利用ください。

研修委員会

編集後記

手元に、過去に発行された「池田教会の案内」冊子があり、年表の頁を見てふと気づいたことがあった。“1955年12月豊中教会より分離して、新しく、池田教会が現在地で発足しました。御受難会は、大阪教区の委託を受けて池田教会の司牧に当たることになりました。初代主任司祭カール神父様着任。”とあり、2015年は池田教会にとって、静かに60周年を迎えていた。だからどうだと、言われるかもしれないが、私なりに思いを馳せる時間が持てた。また、これからも池田教会は、種は小さくても成長すると野菜の中で1番大きくなり、食材にするとパンチのある味「芥子の種」の様な存在で、あってほしい。

2016年も広報誌『からしだね』をどうぞよろしくお願ひします。

(天使の微笑)